

第3回 新潟市観光アクションプラン策定委員会 議事録

日 時	令和7年3月25日（火）午後3時30分～5時10分
会 場	古町ルフル3階 302会議室
出席者	別紙「出席者一覧」参照
議 事	<p>※敬称については省略させていただきます。</p> <p><b>1. 委員長あいさつ</b></p> <p>新潟市観光・国際交流部 関川部長より開会の挨拶があった。          (挨拶要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員よりご指名いただいたワーキンググループのメンバーと、大下先生を中心に「新潟市観光アクションプラン（以下「アクションプラン」）」の策定に協力いただき、全4回に渡る会議を経て、アクションプランの案がまとまった。</li> <li>・アクションプランは限りある予算やマンパワーを、なるべく効果的に配分していくための本市の行動指針のようなもの。記載されているものがすべてではなく、既存の事業についてもその目的をきちんと理解し引き続き推進していく。</li> <li>・委員の皆様には、アクションプランの策定及び今後の運用にむけてご意見やご助言をいただきたい。</li> </ul> <p><b>2. 議事</b></p> <p>○第1号議案「新潟市観光アクションプランについて」</p> <p>新潟市観光・国際交流部観光政策課 明間課長よりアクションプランについて説明があった。          (質疑応答)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレジットカードの利用だけで、(飲食店・居酒屋)の利用率が低いと言い切ってしまうのはどうかと思う。(山口)</li> <li>・利用率というのはどのように計算されるのか。(曾根)             <ul style="list-style-type: none"> <li>→キャッシュレスの決済を行った全体を100とした場合に、ショッピングセンターや、デパート、スーパーなど色々な業種で使われているが、そのうち「居酒屋・飲食店」の利用が5～6%程度だったということ。(事務局)</li> <li>→新潟市の場合は他都市と比較してキャッシュレス環境が整っていないとか、飲食店の客単価が低いとかの影響があるのではないだろうか。(能登谷)</li> <li>→比較した都市でクレジットカードの使用できる店舗の数はそれほど大きな差がない。それにも関わらず、居酒屋や飲食店で使われている人数や金額が低くなっているというのは特殊な動きであるということは調査を委託した事業者からも聞いている。(事務局)</li> <li>→外客が少ないことが影響しているのではないか。県内や市内から入ってくる人は、あまり外食していないから利用率が低いのでは。(曾根)</li> <li>→本調査の対象は県外居住者であり県内居住者は除外している。例えばビジネス目的で日帰りの方が多く、仕事が終わったらすぐ帰ってしまうなどがあるのではないかと推察している。</li> </ul> </li> </ul> </div>

(事務局)

→最近の傾向として、コンビニ等で買ってきたものをホテルの客室内で飲食されるという方は非常に増えている。ビジネス目的で来られる方は、特にそういう傾向が顕著である印象。(曾根)

→MICE と言うと、交流会が最初から組み込まれていて、それに参加費が含まれているため個人で払うことはないということがあるのではないか。(山口)

・観光イメージの定着化という部分はどのようなイメージの定着を考えているのか。(山口)

→まずは既存の「食と酒の魅力」、「みなとまち文化」、「ゲートウェイ機能」などを定着させつつ、徐々に8区の観光資源の方へ促していくようなイメージで考えている。(事務局)

→読み込まないと分からないかもしれない。明確化しておいたほうが良い。(山口)

・推し活については、若い人向けのアイドルが来るのと、年配向けのアーティストが来るのでは対応が違う。推し活のターゲットごとの行動特性についても調査して欲しい。(能登谷)

→例えば、ももクロのコンサートが4月に新発田市で開催される。にいがた2キロ担当課では、ファンのアイドルのカラーなどを模したアイテムやスイーツなどを用意するなど、推し活層取り込みのためのアイデアや手法などを、事業者に向けたセミナーなどで勧める取り組みを行っている。(事務局)

→アーティスト名などを明示してしまうとクレームにつながる。興行主からも拒否されてしまうかもしれない。(能登谷)

→アーティスト名を直接出すことはしない。色分けする、イメージできる装飾をするなどの取り組みは実例があり、効果も出ているということは聞いている。(事務局)

→今回のももクロのコンサートを例に挙げると、他都市で行われた公演の際に、GPSデータを使って、ファンの方がどういった動きをするのかというのを事前に調査した上で、そのデータを店舗等に開示するようなこともやっている。(事務局)

・そもそも誰が来るのかなどの情報が新潟市内に流れていないと思う。(能登谷)

→にいがた2キロの事業で、コンベンションの開催スケジュールにコンサート情報なども取り入れて一覧にし、ホームページで公開できるように準備をしている。このスケジュールを店舗やホテルの事業者から活用いただきたいと考える。(事務局)

・取り組む事業については、誰かが連携を取ってやらないと結局バラバラの動きになる。そのつなぎ役を誰がやるのかを明確にしておかなければならない。(能登谷)

→観光部門が担っていくことになると考える。(事務局)

→まずは庁内から他人事意識をやめさせないといけない。それぞれの事業には目的があつて、観光的な視点と違いがあると思うが、ある程度歩み寄ってもらう感じにしないと横の連携はできないと考える。(関川)

・イメージが「食と酒」とか「みなとまち文化」となっているが、新潟市には「自然」というものも活かして行ってほしい。(曾根)

→すごくいいと思うが、発信が弱い行政側にやらせると事業が続かない。行政はあくまでも支援的な立場でないと継続できない。(能登谷)

・女性の取り込みについては、どのように進めていく想定なのか。(山口)

→キーワードとして、芸妓だとか醸造文化とかで発信していきたいが、まずは手探りながら

事業を進めることになると思う。(事務局)

→ターゲット層でもある「ミドルエイジの女性」で、市内でも精力的にイベントなどをやっている人がいる。そういう人に教えてもらうというのがいいのではないかなと思う。

(能登谷)

→あまり「女性」を前面に出すというのも今の時代とは合わないのかなというのもあって、やり方は難しいと感じている。評価検討を進める中で、委員に女性をなるべく登用していきたいと考えている。(事務局)

→過去に「ミドルエイジの女性」をターゲットにしたことがある。その時は、ミドルエイジの女性が圧倒的に客単価が高かったため、ターゲットに設定した。そのように背景があって理由がしっかりしていれば、「女性」というワードをセンシティブに感じる必要もないと思う。(山口)

→「醸造文化」と書かれているが「発酵文化」という表現の方が良いのではないかな。(山口)

・計画づくり大変だったと思う。評価検討ではターゲット層にどのくらい届いたのかを評価するために数値的に結果を追って欲しい。(山口)

・いい計画が出来たと思う。これをたたき台に、評価検討などで発展していけば良いと思う。

(能登谷)

・旅行事業者として付加価値のあるコンテンツ作りで連携していけたらと思う。東アジア系のインバウンドからいかに消費してもらうかなどと並行して、欧米豪の取り組みについても推進していかなければならない。(廣)

・協力できることがあればやっていきたい。(松宮)

・オーバーツーリズムなどは世界的にも問題になっている。新潟市はまだその段階にないが考えていかなければならない。新潟市には我々が思っている以上に知られていない魅力があると思うので、これを全国、全世界に発信していけたらいいと思う。(曾根)

・今回できたアクションプランは、他の自治体にはない特徴が3つある。1つ目は、「他人事から自分事へと明記している点」。2つ目は「評価検討をきちんと行うことを明記している点」。3つ目は「推し活をターゲットにしている点」。(大下)

・オーバーツーリズムや観光危機管理などは観光部門としては意識をしておかないといけない。その意識をどんどん広げていくということで、「他人事から自分事へ」というテーマは重要になってくる。(大下)

・女性層の取り込みや、推し活に向けた施策などはトライ&エラーが大事。失敗をしないために何もしないというのが一番やってはいけないこと。やってみて失敗したということを単に失敗として捉えずに、次へのチャンスを得られたというような評価をしてもらえると良いと思う。(大下)

○第1号議案「新潟市観光アクションプランについて」の採決

関川議長より委員の意見を反映させることとし、承認の可否を諮った。

→全委員の賛成が得られたため、第1号議案については承認

○第2号議案「次年度以降の運用について」

新潟市観光・国際交流部観光政策課 明間課長よりアクションプランの次年度以降の運用について説明があった。

(質疑応答)

- ・特になし

○第2号議案「次年度以降の運用について」の採決

関川議長より第2号議案承認の可否を諮った。

→全委員の賛成が得られたため、第2号議案については承認

以上